

布施 孝尚 ふせ たかひさ
TAKAHISA HUSE



▼プロフィール
登米市長。平成17年4月の選挙で初当選し、登米市初代市長に。当選時は43歳という若さで、東北地方の中で最年少市長となった。趣味は映画鑑賞とドライブ。こだわりを持たず素直に物事を判断することがモットー。

雇用の確保、地域医療体制の充実。地域の個性を生かした公平性のある市政運営

秋山 福祉に関して話しますと、合併前は各町の事情が違いましたので町によってサービスが異なっていました。例えば、A町の入所者を支援するにはA町のサービスで、B町の人にはB町のサービスでと頭を切り替えながらの仕事でした。当時はA町の人の支援をする際に「B町であればこのサービスも受けられるのに」と思うこともありましたが、合併したことでサービスが一本化されて良かったと思っています。また、合併によってほかの町の新しい保健師さんが異動でやって来ますが、わたしは新しい人との関わりを大切にしています。

市長 福祉サービスは子育て用品支給券を充実しました。また、合併してすぐに不妊治療の助成制度などへも取り組みました。職員の異動については変えないでほしいと要望もありますが、変わらないと見えないこととたくさんありますので、市の一体化のために今後も町域を越えた異動が必要だと思っています。

2 これからのまちづくり

司会 合併してからのまちづくりについて、皆さんからさまざまな意見をいただきました。市民皆さんがこれからもずっと安全安心に暮らすことができるように、市ではいろいろな事業や施策を実施していますが、今後のまちづくりについてご提言、

子どもたちやお年寄りに、考える力となる農業体験ができる環境づくりの構築を



及川 さよ子 おいかわ さよこ
SAYOKO OIKAWA

▼プロフィール
専業農家。米、キュウリ、レタス、ホウレンソウを栽培。義母、夫、長女、二女、三女、長男の7人家族で、家族全員農作業に従事。現在は上沼地区交通安全母の会会長、上沼コミュニティ連絡協議会女性部長として活躍。

が実現できなかったかもしれません。**及川** 専業農家の場合は、米価の下落が深刻な問題です。農家は機械に経費がかかり、その機械代のために仕事をやっているような感じがします。農業経営は合併に直接関係ありませんが、合併後に補助金制度を活用するため、申請書を役所に提出したとき、合併前より手続きが面倒になった気がしました。しかし、そのときは職員から丁寧に書き方などを教えてもらいました。

また、各町域で行われていた町民運動会が市になったことでどうなるのか心配でしたが、これまでどおり実施していますし、昨年からはさらに地区のコミュニティ運動会が復活しました。中田町時代の町民運動会は、規模が大きすぎて誰が走っているのか分からず、参加者も少なかったりで若干面白味に欠けていました。地区コミュニティ運動会の復活により、顔なじみの人たちが出場して応援が盛り上がり、身近な感じがしました。地域の行事は小さいほうが盛り上がるのかなあと思いました。

市長 中田町の町民運動会は行政区数が多く、会場スペースの問題で各行政区からの代表何人かが参加しての運営だったと思います。わたしも地区コミュニティの運動会を見ましたが、全員が笑顔で競技に参加していたので、運動会を復活して良かったと思っています。これからも、市民皆さんが進んで参加できる行事の

ご要望などがあればお話ししていただけです。

後藤 昔は「衣・食・住」といわれていたが、今は「医療・職業・文化」に変わってきている。安心して子どもを産んだり、高齢者が心配せずに病院にかかったりできる、医療体制が充実したまちづくりを望んでいます。また、若者の地域離れが進んでいるので、少子化の歯止めのためにも雇用の面に力を入れて、これからの世代である若者を登米市に残すことを考えてほしい。

市長 お話しをいただいたように、雇用の確保、就業機会の増大に重点を置きたいと思っています。また、地域医療をどのように支えていくかも大きなテーマです。この二つを柱に市政を運営していきます。

鎌田 南方町時代は、子どもたちのスポーツの試合があれば町からバスを借りることができましたが、市になって制限されたことが残念です。何でもすべて貸してほしいとは言いませんが、できるだけ将来を担う子どもたちに市の予算を使ってほしい。

市長 学校行事だけで言わせてもらえば、スポーツ・文化関係の大会などがたくさんあり、すべてに対応することは困難なのが現状です。合併前はすべての行事に貸していた町と、一切貸していなかった町があり両極端でした。バスの貸し出しは基準を設けて対応していますが、子どもたちへの支援は非常に大事なことなの

実施を考えていかなければいけませんね。

鎌田 合併については、合併協議会でまちづくり検討委員会の委員でしたが、九つの町の大合併であり、また急な合併話だったため、議員定数や合併特例債の問題など課題が山積みで、わたしたち委員は合併協議が整うのか大変不安でした。

この3年間を振り返ってみると、市政運営の面で九つを急いで合わせようとしているところが見受けられます。しかし、今まで違う町の人間が一つになるためには、2、3年では無理なことなので、10、20年と長い期間で考えていけばいいのではないかと思っています。

市長 地域の個性を考えながら、不公平を無くすことが一番大事です。一つ一つ言えばきりがありませんが、合併してから調整が難航したのは国保税の税額でした。各町の税額があまりに違いすぎて合わせるのに苦悩しました。高齢化率が高い町は医療費がかかるのは当然ですが、一つのまちになったことで、均等にしなければいけませんでした。

また、合併特例債については必要最小限にしたいと考えています。有利な借り入れといっても3割は市で負担する「借金」なので、新しく建物を建てるハード事業ではなく、既存の施設を上手に活用することが、これからの市政運営のキーワードになると思っています。

医療・福祉の充実で安心して生活ができて、長生きして良かったと思えるまちに



秋山 祐子 あきやま ゆうこ
YUKO AKIYAMA

▼プロフィール
医療法人掬水会「介護老人保健施設なかだ」の支援相談員、介護支援専門員。昼夜を問わず、入所者の介護や世話をしている。東和町米谷地区から同米川地区に嫁ぎ、現在は夫、長男、長女、二女の5人暮らし。

で、今後も力を注いでいきたい。

秋山 登米市には、誰しもが長生きして良かったなあと思えるまちになってほしいと願っています。医療・福祉については、里帰り出産ができなかったり、一人暮らし世帯が増えて誰も介護する人がいなくなったりしている現状ですが、どのような状況でも安心して生活ができるまちであってほしいですね。

及川 できるだけ多くの子どもたちやお年寄りの人に、農業を体験してもらええる環境づくりをしてもらいたい。土作りでいえば、どのように土を作れば作物が立派に育つておもしろいものができるかなど、自分で考える力にもつながると思いますから。

鎌田 支所と支所をつなぐような道路整備を望みます。また、登米市は広大で肥沃な土地があり、森林や河川などの資源も豊富なので、財産がほかの市町村より多いところをもっとPRしてもらいたい。

後藤 まちづくりは人づくりです。若者が定住する地域になるために、農業と工業が一体となった登米市ならではのまちづくりを望みます。

市長 皆さんからたくさんの貴重なご意見をいただきました。今後も皆さんからいただいた声を市政に反映するとともに、市民皆さんが積極的に市政参画できる組織づくりを推進しながら、今後のまちづくりを考えたいと思います。本日はありがとうございました。